

# 令和2年度学校運営連絡協議会実施報告

東京都立東村山高等学校  
統括校長 川瀬 徹

## 1 組織

- (1) 東京都立東村山高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(教務主任兼務)=事務局長、第3学年主任 計2名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長2名、経営企画室長、主任教諭（教務主任）、主幹教諭（生活指導主任）、  
主幹教諭（進路指導主任）、主任教諭（保健主任）、主任教諭（1学年主任）、  
主任教諭（2学年主任）、主幹任教諭（3学年主任） 計11名
- (4) 協議委員の構成  
東京経済大学副学長（竹内 秀一）、東村山市教育委員会教育部学校教育担当次長兼指導室長  
（井上 貴雅）、東村山市立第五中学校長（安藤 環）、東村山市立久米川東小学校長（桑名 淳）、  
東村山警察署生活安全課少年第1係統括係長（野崎 秀文）、東村山高等学校PTA会長（今井  
有希子）計6名

## 2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和2年 4月30日（木） 本校校長室・・・中止

- ①校長挨拶 ②協議委員委嘱・委員紹介 ③平成31年度学校運営連絡協議会報告
- ④本年度東村山高校学校運営連絡協議会年間計画 ⑤平成31年度学校経営報告
- ⑥本校の教育活動紹介 ⑦意見交換 ⑧本年度評価委員及び委員長の選出
- ⑨事務連絡

第2回 令和2年10月30日（金） 保護者控室・・・中止

- ①学校長挨拶 ②本校の現状と課題の説明 ③学校評価アンケートの検討
- ④学校評価委員会の予定 ⑤意見交換 ⑥その他

第3回 令和3年 2月 5日（金） 保護者控室・・・中止

- ①学校長挨拶 ②本校の現状と課題について ③学校評価アンケートの考察
- ④評価委員会からの提言 ⑤意見・情報交換、改善への提言 ⑥その他

- (2) 学校関係者評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和2年10月30日（金） 保護者控室・・・中止

- ①学校評価の基本方針 ②令和2年度の学校評価アンケート項目の整理

第2回 令和2年 2月 5日（金） 保護者控室・・・中止

- ①アンケート集計結果の分析・考察 ②課題の整理

※令和2年度の学校運営連絡協議会について、年間3回の協議会及び年間2回の評価委員会の実を予定していたが、4月7日に出された緊急事態宣言を受け、通所での実施が難しいと判断したため、書面での開催を行った。その後、10月も300人前後の新規感染者が出ている状況であり、2月の協議会も2回目の緊急事態宣言が出されたため、書面開催で実施した。

## 3 学校運営連絡協議会による学校関係者評価

- (1) 学校評価の観点

- ①学校生活 ②学習指導 ③生活指導 ④進路指導 ⑤特別活動・部活動
  - ⑥健康指導・安全指導・教育相談 ⑦体罰防止 ⑧エンカレッジスクール（1年生のみ）
- の8観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- ・11月 全校生徒 対象：546名 回収：531名 回収率：97%
- ・12月 全校保護者 対象：546名 回収：280名 回収率：51%
- ・11月 教職員 対象：45名 回収：43名 回収率：96%
- ・ 月 地域住民等 実施なし

(3) 主な評価項目

8観点に基づいて、学校の実態に合わせて適宜設定する。自由意見もまとめる。

- 一部、コロナ禍で実施できなかった項目があった。

(4) 回収率

- ・生徒の回収率は、全体で97%であった。（昨年度は95%）
- ・保護者については、51%（昨年は37%）であった。昨年度より14ポイント上昇している。しかし、回収率は50%台に留まっているため、保護者への声かけや回収方法、時期等を検討し回収率を上げていきたい。
- ・地域に関しては、例年、保育園、小・中学校の教職員、東村山市社会福祉協議会会員にアンケートを依頼していたが、今年度は、連携等も無く、本校との情報交換なども実施できなかったためアンケートの依頼を見送っている。

(5) 分析と考察

・ 学校に対する満足度

生徒は、「東村山高校に入学してよかった」が1年生81%、2年生65%、3年生78%であった。昨年度の数値1年生約72%、2年生約74%、3年生76%と比較し2年生で減少の結果となった。2年生に関しては、修学旅行を含め行事等が中止となったためモチベーションが上がらなかったと考える。保護者に関しては、94%と本校の学習活動に好意的な状況である。「学校生活は楽しく、充実している」については生徒全体77%で昨年度と変化はみられなかったが、今年度の状況を考えると、東村山高校に満足して通学している割合は高いと考えられる。保護者アンケートを見ると、入学前から本校への期待も大きく、本校の教育活動への期待度が増していると考えられる。教員は「東村山高校に入学してよかった」が95%、「学校生活は楽しく、充実している」が88%と回答しており、生徒と保護者の高い満足度を反映して教育活動に臨んでいると考えられる。

・ 学習指導に対する満足度

教員の教え方などに対する満足度は、生徒が1年生79%、2年生75%、3年生75%であった。昨年度の数値は1年生75%、2年生73%、3年生75%であった。一方保護者は、1年生90%、2年生85%、3年生88%で昨年度は1年生89%、2年生94%、3年生87%で2学年の保護者に関しては10ポイント下がっている。この項目も行事等が中止になった影響が大きいと考える。

授業やテスト勉強など、積極的に勉強に取り組んでいると回答した生徒は1年生70%、2年生62%、3年生70%であった。昨年度は1年生60%、2年生58%、3年生63%であった。1年生に関しては入学時の倍率も高かったことから増加傾向が見られる。保護者は1年生77%、2年生80%、3年生69%で昨年度と比較すると3年生を除き微増である。今年度に関しては、1年生のポイントが高く、保護者の期待も高い。

引き続き、課題提出や定期テストへの取り組み、家庭での学習習慣を確立できるよう指導を行い、ポイントの向上に向けて一層の指導が求められる。

・ 生活指導に対する満足度

基本的な生活習慣が身についているかについては、生徒82%、保護者90%、教員65%であり生徒・保護者に比べて、教員の数値が若干低い結果となった。エンカレッジスクールの本校では入学する生徒が多様であり、指導が難しい面もあるが引き続き指導を継続していく。服装・頭髪指導を十分に行っているかについては、生徒85%、保護者90%、教員95%であり高い水準を保っている。引き続き指導を継続して行く。

・ 進路指導に対する満足度

進路について真剣に取り組んでいるか、キャリア教育を行っているか、生徒のニーズに答えているかについては、教員が100%であるのに対して生徒80%、保護者87%となっている。進路実現に向け、1年生からキャリア教育を積重ねている結果ではあるが、近年、進路未決定の者

が増加傾向であるのも事実である。改めて、「進学応援型エンカレッジスクール」の本質を考え、生徒一人一人が自ら考え進路を決定できるよう進路指導部を中心にキャリア教育を組立ていく必要がある。

・ 特別活動・部活動に対する満足度

ホームルームに対する満足度は、生徒66%、保護者79%である。昨年度と比較すると横ばい状態だが、満足度は高くない状況が続いている。学校行事に対する満足度は、生徒51%、保護者45%、教職員29%今年度はコロナ禍のため文化祭・体育祭、2年生に関しては修学旅行と中止になったことが影響しているのではないかと考えられる。部活動に対する満足度は、生徒65%・保護者64%で、昨年度と比べ減少傾向にあった。活動時間や活動内容が影響したためと考えられるが、バドミントン部、ビームライフル部が活躍した。

・ いじめなどに対応した教育相談・健康指導・安全指導に対する満足度

悩みや、いじめなどを相談するカウンセリング等の教育相談が充実しているかについての満足度は、生徒74%、保護者79%であるが、生活指導部、学年担任自立支援チームと連携を図っている。生徒に対しては、「いじめアンケート」を年間3回実施（今年度は2回）していじめの兆候を早期に捉えようとしている。スクールカウンセラーに加えてユースソーシャルワーカーを配置した自立支援チームを中心とし、相談に訪れる生徒の家庭環境などにも専門的な立場から支援を行うことができる体制を整えている。健康指導については、生徒が73%、保護者が75%で、横ばい状態であるが、アレルギーなどの相談件数が増加している。安全指導については、生徒が70%、保護者が80%で、昨年度より減少している。集合する人数制限など制約の多い1年であった。

・ エンカレッジスクールについて（1年生のみ）

「30分授業」・・・生徒90%、保護者93%、教職員95%の満足度で、いずれも増加した。

「2人担任制」・・・生徒80%、保護者89%、教職員84%の満足度で、いずれも増加した。

「学び直し」・・・生徒78%、保護者90%、教職員65%の満足度で、教職員について基礎の定着が身につけていないと考える者が多くいる。

「体験学習」・・・生徒89%、保護者82%、教職員98%の満足度で、生徒・教職員で増加している。

上記4項目のエンカレッジスクールにおける取組は、昨年度と比べて、生徒・保護者の満足度が高い。

・ 自由記述

生徒22件、保護者35件の自由記述があった。学校の教育活動への意見やコロナ禍での対応で意見が分かれた。行事や部活動についても要望があった。また、保護者の意見で学び直しなど肯定的な意見も多く見られた。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

##### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・ 本校で実施している各種活動と新校舎への移転後の状況報告。コロナ禍の学習活動についての対応、交通安全や自転車のマナーについての取組、特別進学クラスでの英検受検への取組等の内容を、委員である東村山市教育委員会、市内小中学校、警察署等に周知することができた。

##### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題

- ・ 地域に対する「進学応援型エンカレッジスクール」としての広報。
- ・ SNSでのトラブルや悩みを抱える生徒などへの対応。
- ・ 校舎移転後、次に控えるグラウンド工事での近隣住民への配慮。
- ・ 学力向上への取組の必要性。
- ・ オンライン授業等の対応。
- ・ P T A活動への保護者理解の啓発。

#### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

##### (1) 東村山高校の存在意義

- ・東村山高校は地域の要望によって設立された高校であり、地域に根ざした学校として発展に期待。
  - ・進学応援型エンカレッジスクールとして、学び直しとキャリア教育に期待。
- (2) 学校運営
- ・生徒の全員進級・卒業を目指し、転退学者の減少に向けて引続き指導。
  - ・「学びの基盤研究協力校」「学力向上研究校（校内寺子屋）」等の取組の充実。
- (3) 学習指導
- ・特別進学クラスでの英語検定受験。
  - ・各教科の到達目標「村校スタンダード」に基づいた学習指導。
  - ・学力調査（SPI）を活用した教育活動。
  - ・進路実現に向けた、幅広い学習指導。
- (4) 生活指導
- ・頭髪、化粧、スカート丈などの指導。
  - ・生徒の規範意識の確立。
  - ・自転車の乗車マナー等、通学時のマナー向上。
- (5) 進路指導
- ・学力を定着させ、一般受験の力を養成。
  - ・将来の就職を見据えた職業観・勤労観の育成。
  - ・幅広いニーズに対応した進路指導。
- (6) 特別活動・部活動の充実
- ・運動部、文化部ともに活躍とその支援。
  - ・若鳩祭や体育祭を通じた、学校行事への積極的な参加。
  - ・学校行事への保護者の参加。
- (7) いじめなどに対応した教育相談・健康相談・安全指導
- ・いじめの未然防止、早期発見に努力。
  - ・自立支援チームの活用と教育相談の充実。
- (8) 体罰防止
- ・教員研修の活用と未然防止。
  - ・体罰を否定する学校環境の確立。
- (9) 進学応援型エンカレッジスクールと開かれた学校づくりについて
- ・二人担任制、30分授業、体験学習などエンカレッジスクールの特徴を広報。
  - ・生徒会、部活動の活性化とボランティア活動の充実。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員数 6人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない	無回答
2	2	1	0	0	0	1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 なし 企画調整会議 なし

8 その他 特記事項なし